



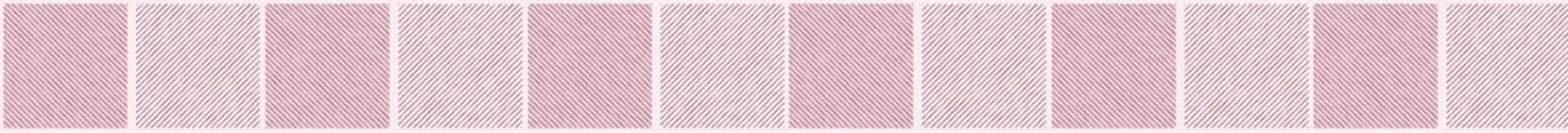
# 小学校英語活動における課題と展望

—ベネッセ2006年調査と2010年調査の結果から—

日本児童英語教育学会（JASTEC）第32回全国大会

2011.6.26 Sun

吉田 研作(上智大学) 原 真奈美(新座市立片山小学校)  
鈴木 尚子、沓澤 糸、邵勤風(ベネッセ教育研究開発センター)



## ◆ 調査概要

- 対象：教務主任 2,383名、高学年担任 2,326名

2006年調査 教務主任3,503人（配布数10,000通、回収率35.0%）

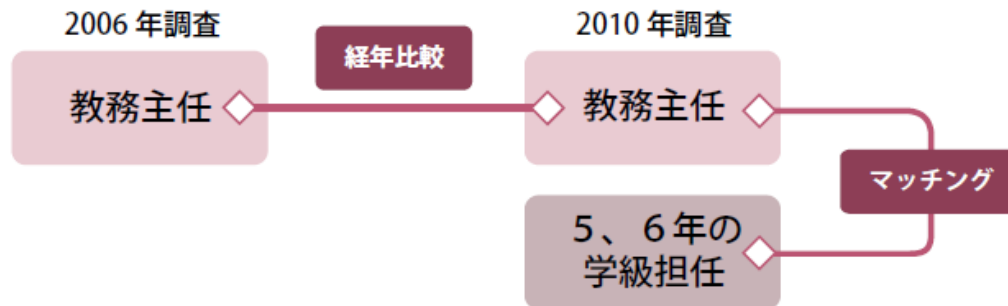
2010年調査 教務主任2,383人（配布数8,000通、回収率29.8%）

5、6年の学級担任2,326人（配布数8,000通、回収率29.1%）

- 方法：郵送法による質問紙調査

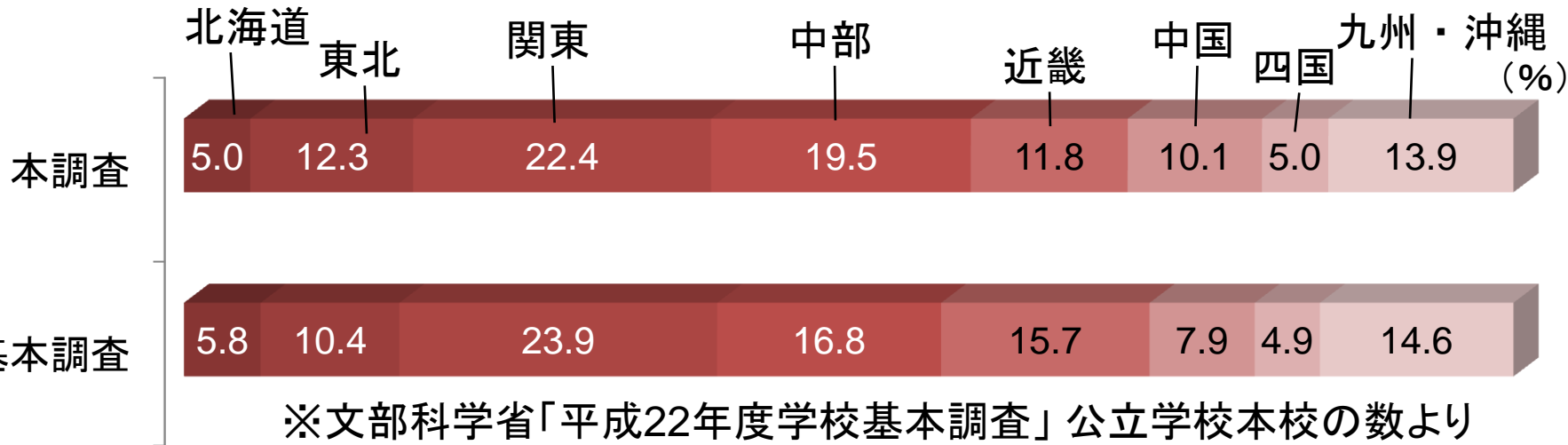
- 時期：2010年7～8月

- 調査枠組：



- 2006年調査と同じ無作為抽出法をとり、教務主任は経年比較が可能に。
- 小学校英語の全体像（自治体・学校の取組み、教員の指導）がわかる。
- 広範囲かつ大規模な調査。

# ◆ サンプルリング



- 全体的には、学校基本調査と同様な分布になっているといえる
- 近畿地方の回答が少なく、中部地方の回答がやや多め

# ◆2006年調査、2010年調査の時代背景

**2006年調査**  
(必修化決定前)

**2010年調査**  
(必修化準備2年目)

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
学習指導要領関連		改正教育法 公布・施行	中教審 最終答申 新学習指導要領告示 (改訂)		新学習指導要領 移行期間	→	新学習指導要領 全面实施
小学校・英語活動	「総合的な学習の時間」の中で、国際理解教育の一環として実施				「外国語活動」実施可に		全校で必修化
	中教審外国語専門 部会審議 状況 報告まとめ 公表		拠点校事業実施 新学習指導要領に 位置づき、必修化決定	拠点校事業実施 中核教員研修↓校内研修 2年間で30時間指示	「英語ノート」を 全小学校に配布		

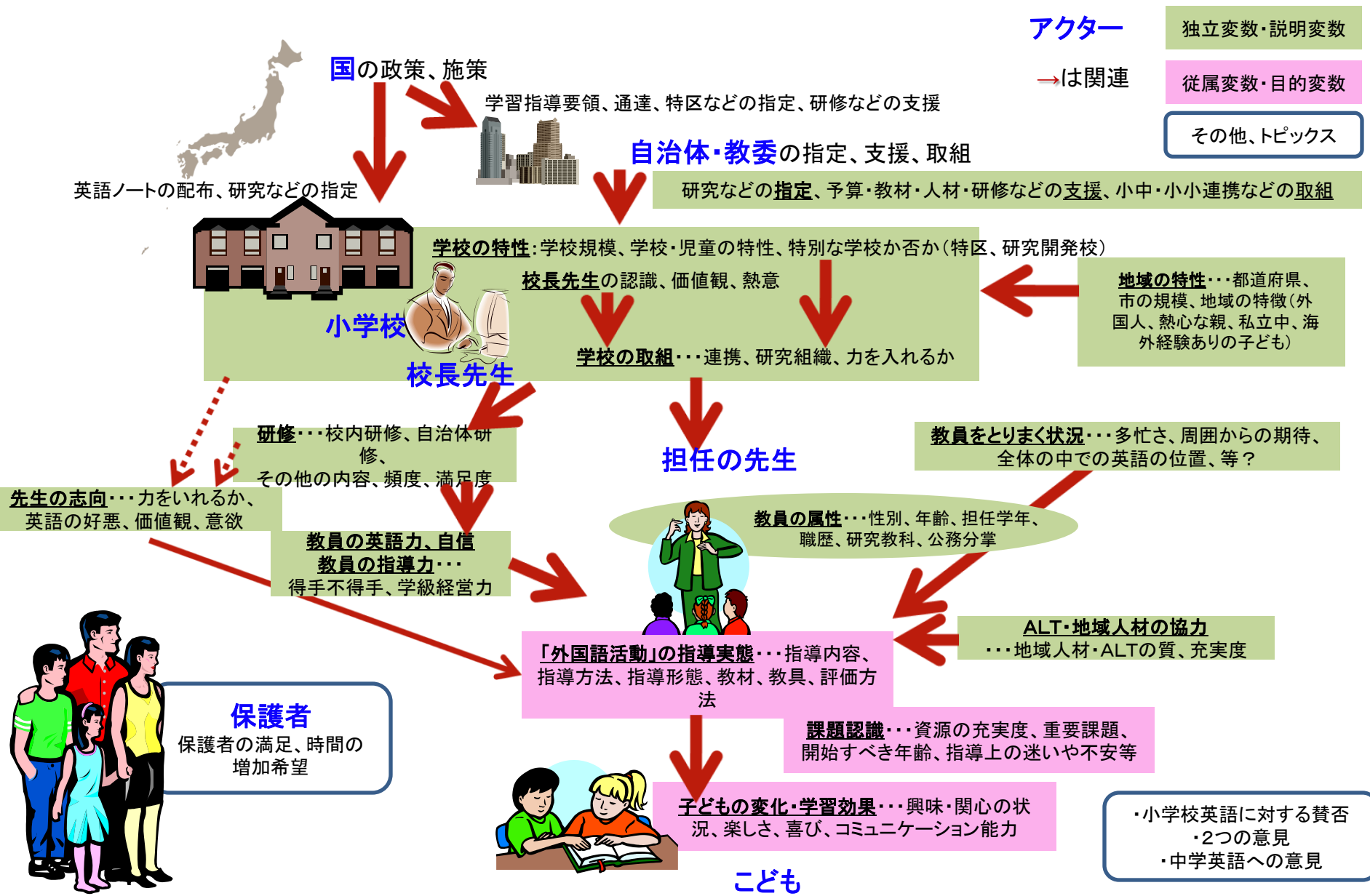
## ◆ 問題意識

---

● 外国語活動必修化決定後の国や教育委員会の取り組みが、学校の取り組みや教員の指導にどのように影響を及ぼしているか。

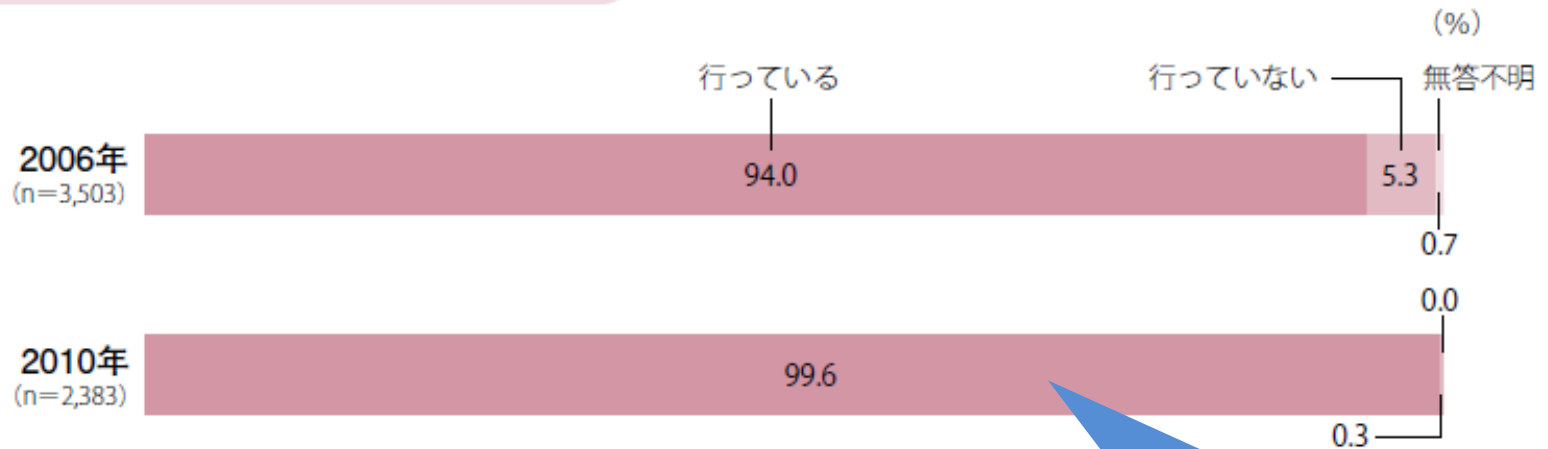
● ひいては、学習者である子どもはどのように変化しているのか。

# ◆調査項目の設計（2010年調査）



# ◆ 英語活動の実施状況

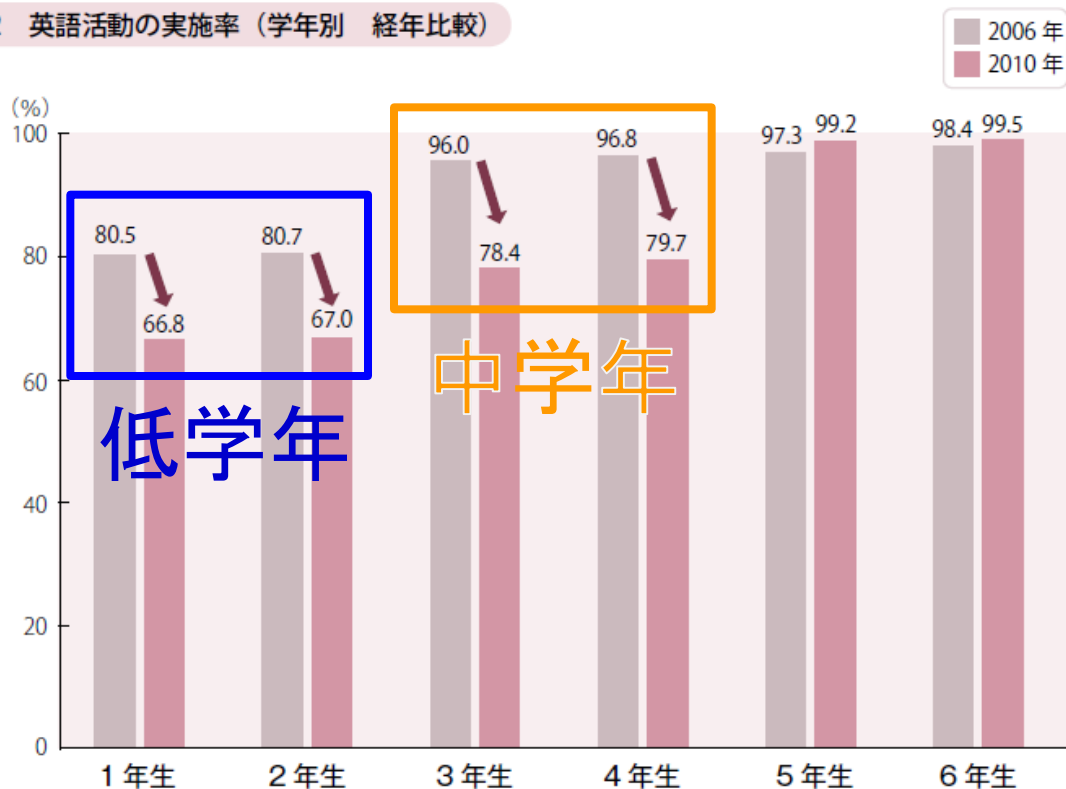
図1-1 英語活動の実施の有無（経年比較）



ほぼすべての  
学校で実施

# ◆英語活動の実施状況

図1-2 英語活動の実施率（学年別 経年比較）



※英語活動を「行っている」学校（2006年n=3,292、2010年n=2,374）のみ対象。

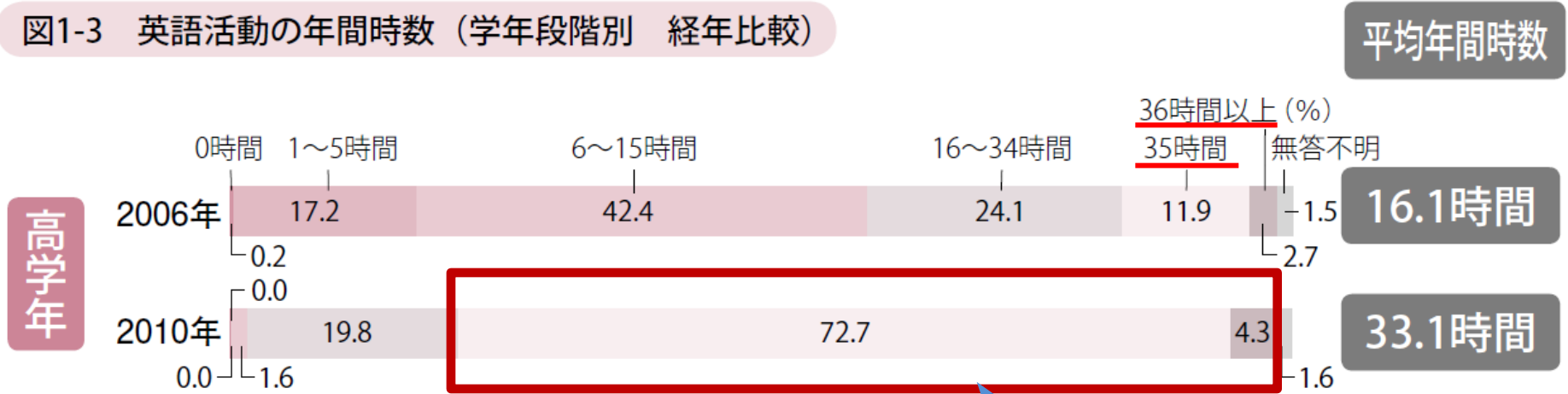
※「外国語（英語）活動は何年生で実施していますか。また、その活動の教育課程上などの位置づけは何にあたりますか」という問いで、1つでも○がついていれば、その学年で英語活動を行っているとした。

低学年、中学年で低下



# ◆英語活動の時数

図1-3 英語活動の年間時数（学年段階別 経年比較）



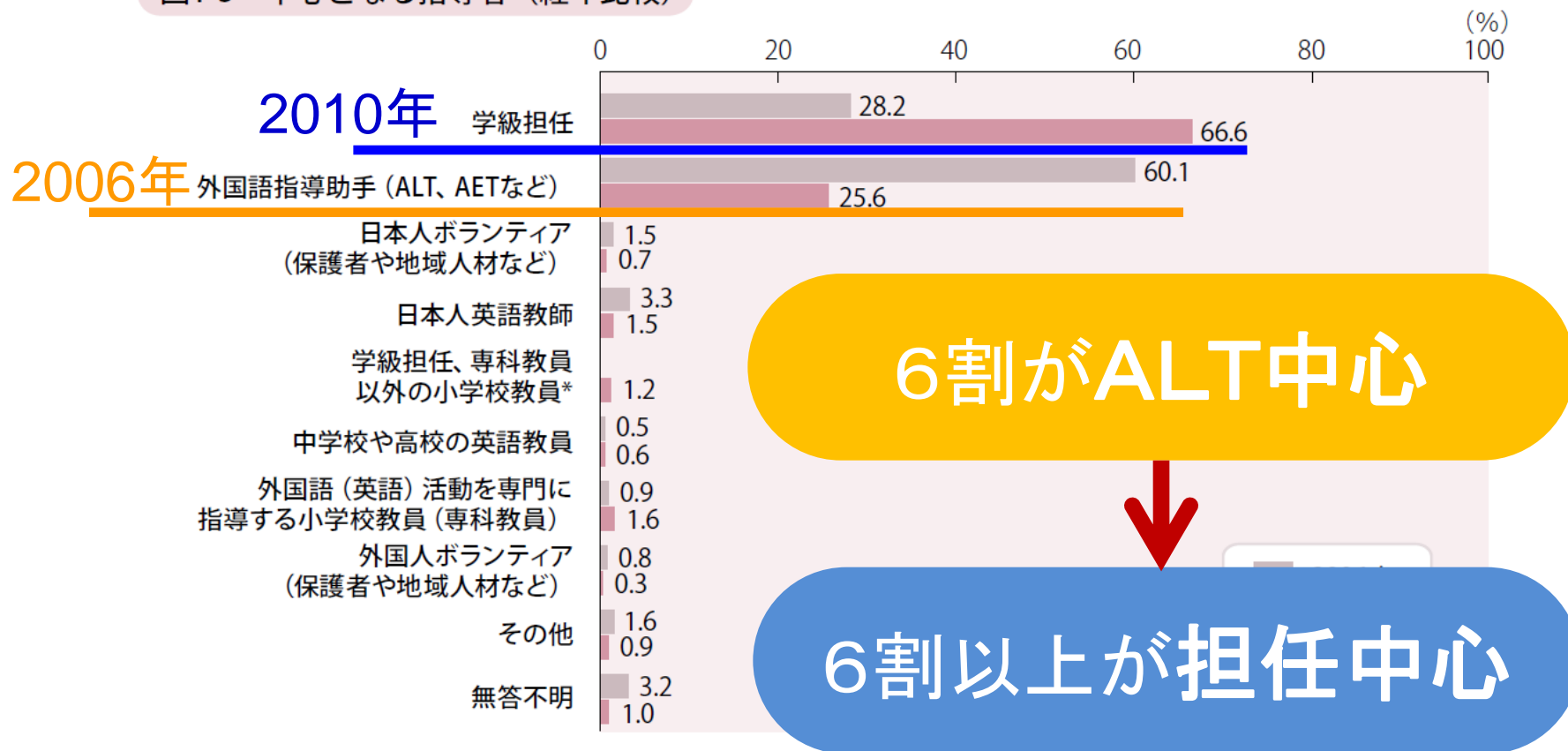
※英語活動を「行っている」学校（2006年n=3,292、2010年n=2,374）のみ対象。

※2010年調査では各学年の年間時数を実数でたずねている。それに対して2006年調査では低学年、中学年、高学年の年間時数を実数でたずねている。2006年調査に合わせるため、1年生と2年生、3年生と4年生、5年生と6年生の時数の平均を算出し、上記のように区分した。

**約8割の学校で  
年35時間実施**

# ◆英語活動の指導者

図1-5 中心となる指導者（経年比較）



※英語活動を「行っている」学校（2006年n=3,292、2010年n=2,374）のみ対象。

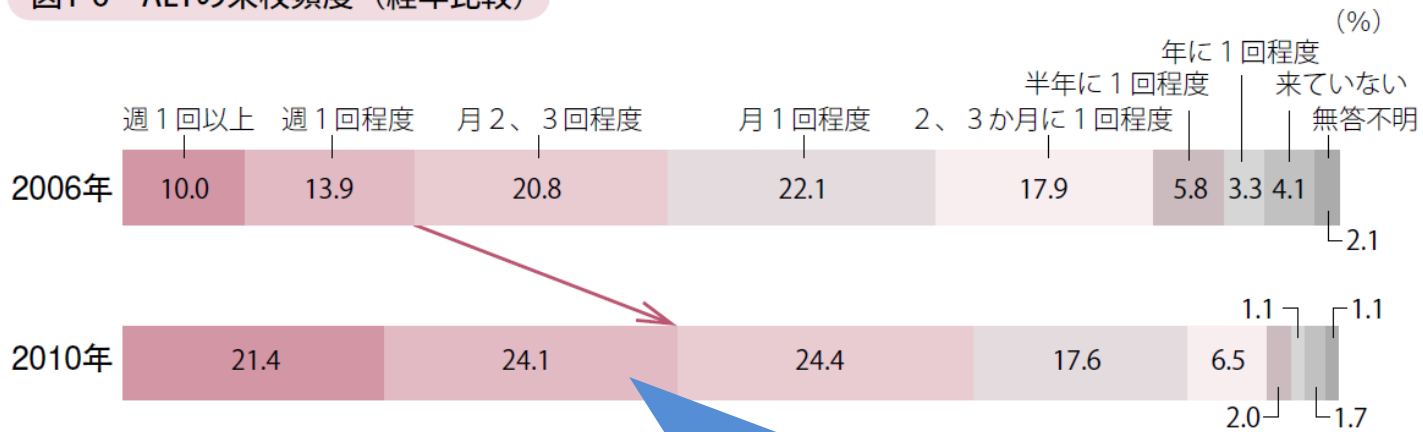
※\*印は、2010年調査より新たに追加した項目。

# ◆ A L T の来校頻度

**Q** 貴校には、どのくらいの頻度で ALT が来校していますか。

教務主任

図1-6 ALTの来校頻度（経年比較）

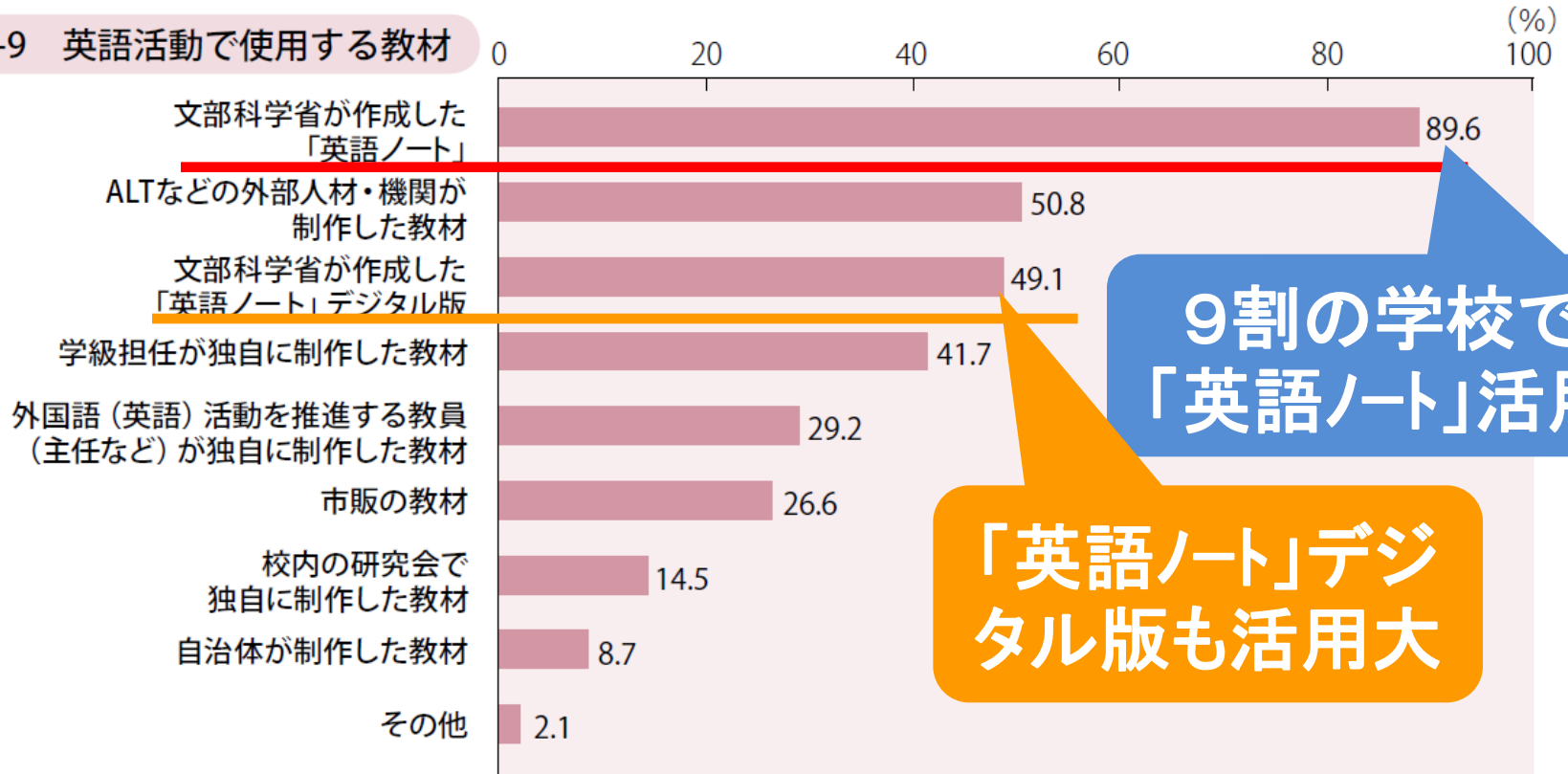


※英語活動を「行っている」学校（2006年）

**週1回程度かそれ以上  
が増加**

# ◆ 英語活動の教材

図1-9 英語活動で使用する教材



9割の学校で「英語ノート」活用

「英語ノート」デジタル版も活用大

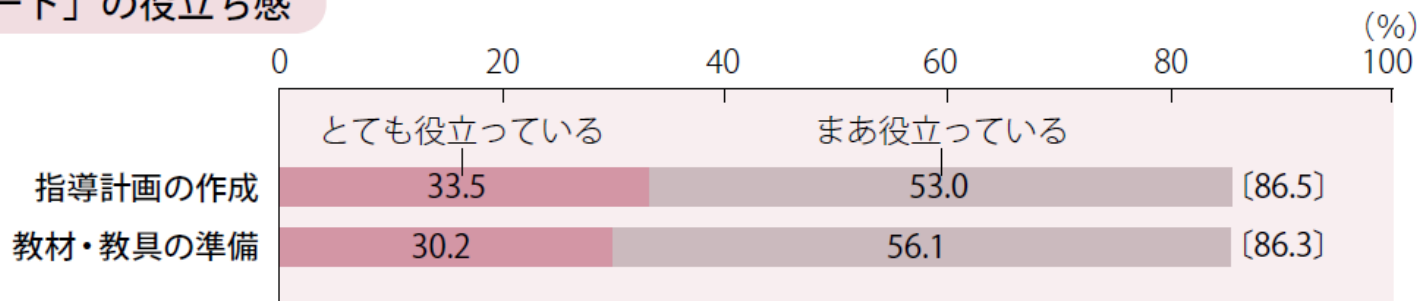
※複数回答。  
※英語活動を「行っている」学級（n=2,315）のみ対象。

# ◆ 「英語ノート」 に対する評価

Q 「英語ノート」は、次のような点で役立っていますか。

学級担任

図1-10 「英語ノート」の役立ち感



※ [ ] 内は「とても役立っている」+「まあ役立っている」の%。

※英語活動を「行っている」学級 (n=2,315) のみ対象。

役立ち感が高い

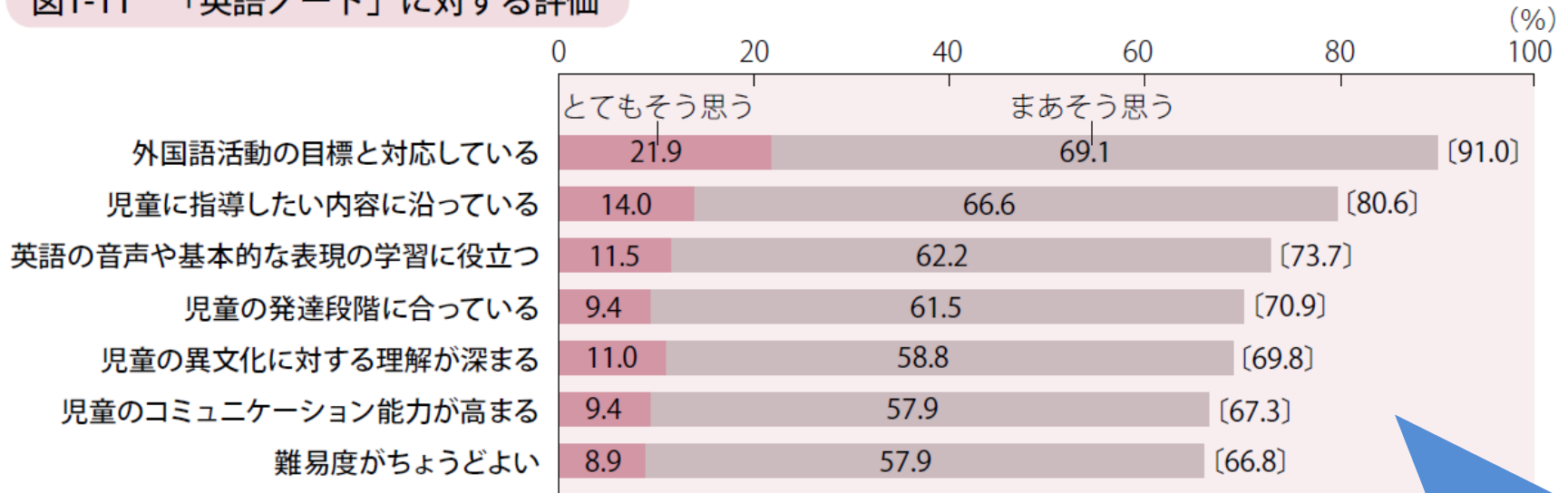
# ◆ 「英語ノート」 に対する評価

Q

あなたは、「英語ノート」で取り扱われている内容について、  
どのようにお感じですか。

学級担任

図1-11 「英語ノート」に対する評価



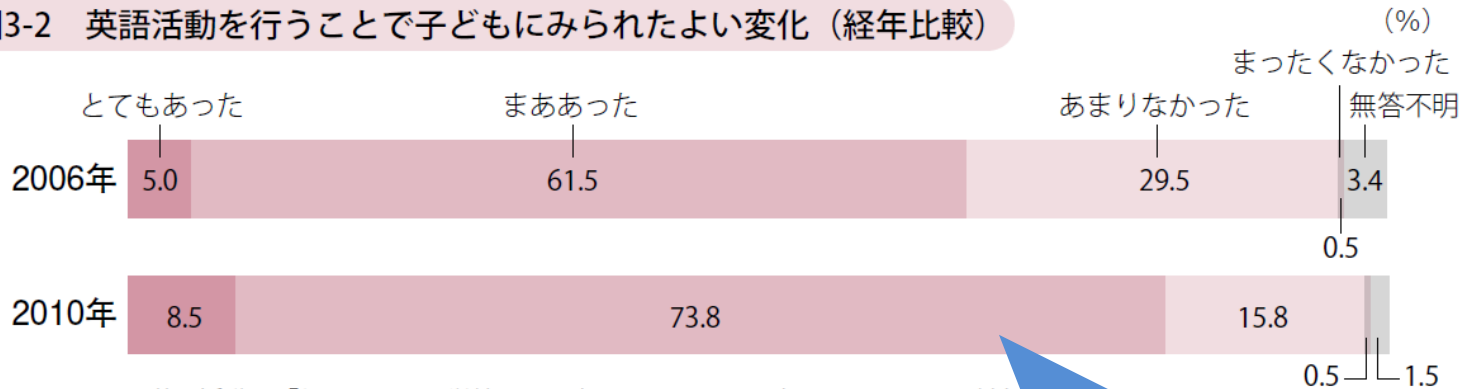
※ [ ] 内は「とてもそう思う」+「まあそう思う」の合計  
※英語活動を「行っている」学級 (n=2,315) の評価

一定の評価を  
得ている

# ◆英語活動による子どもの変化①

**Q** 外国語（英語）活動を行うことで、貴校の子どもたちにより変化はありましたか。 **教務主任**

図3-2 英語活動を行うことで子どもにみられたよい変化（経年比較）



※英語活動を「行っている」学校（2006年n=3,292、2010年n=2,374）のみ対象。

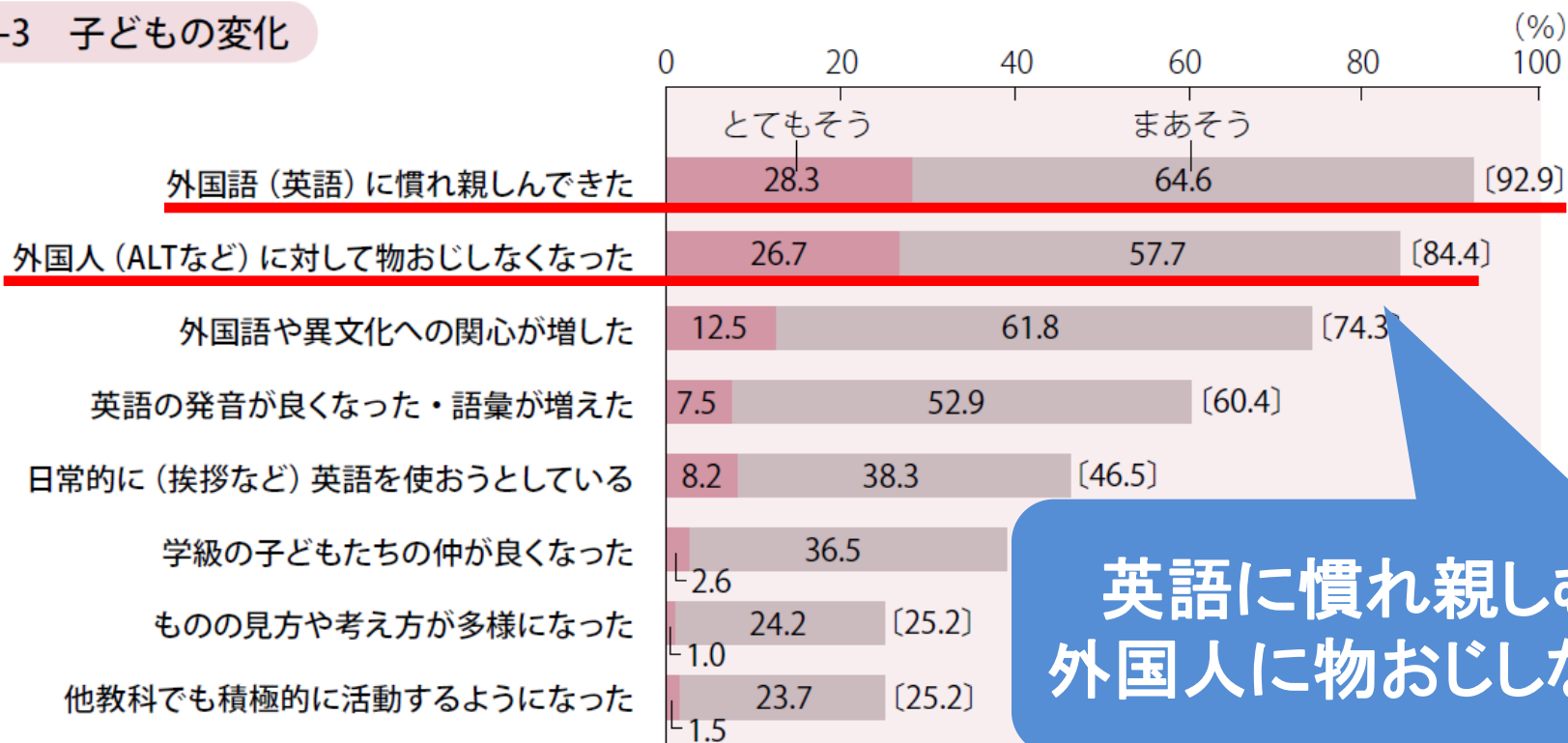
**肯定的な意見が  
増加**

# ◆英語活動による子どもの変化②

Q 外国語（英語）活動を行うことで、子どもたちに変化はありましたか。

学級担任

図3-3 子どもの変化



英語に慣れ親しむ  
外国人に物おじしない

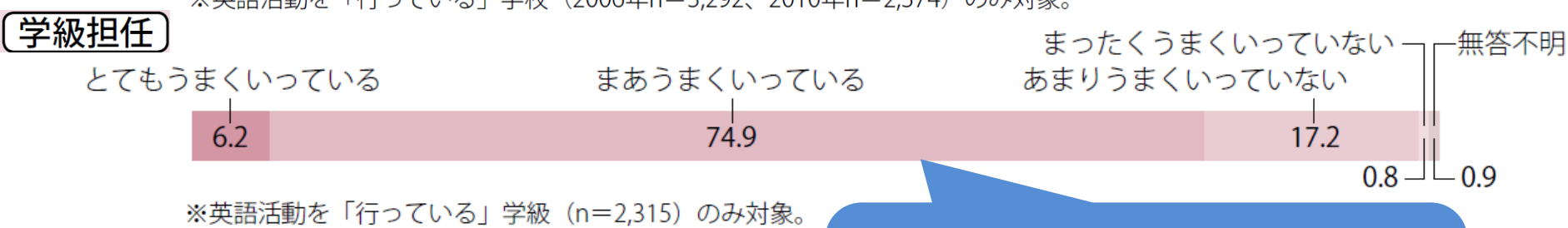
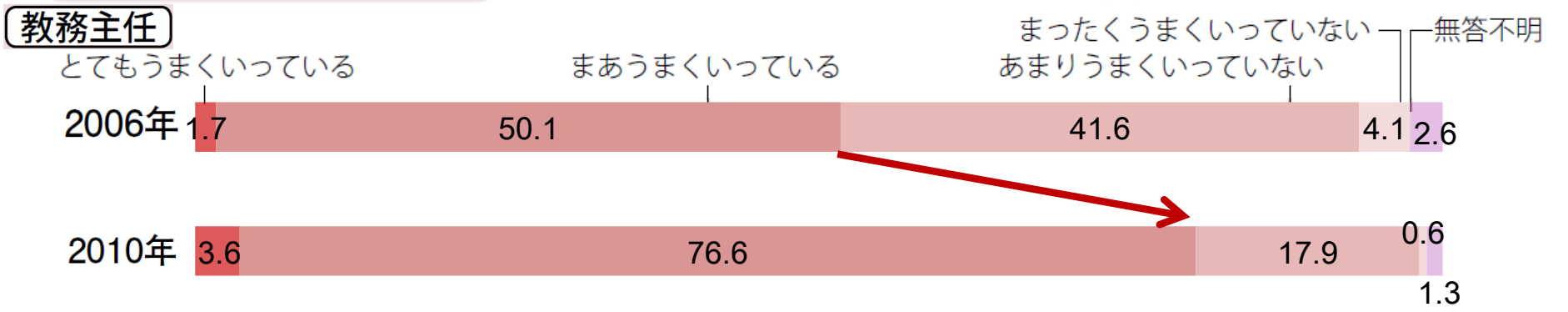
※〔 〕内は「とてもそう」＋「まあそう」の%。  
※英語活動を「行っている」学級（n=2,315）のみ対象。



# ◆英語活動についての総合評価

**Q** 総合的にみて、あなたの学級の外国語（英語）活動はうまくいっていると思いますか。 学級担任

図4-1 英語活動に対する評価



**8割の教員が「うまくいっている」**

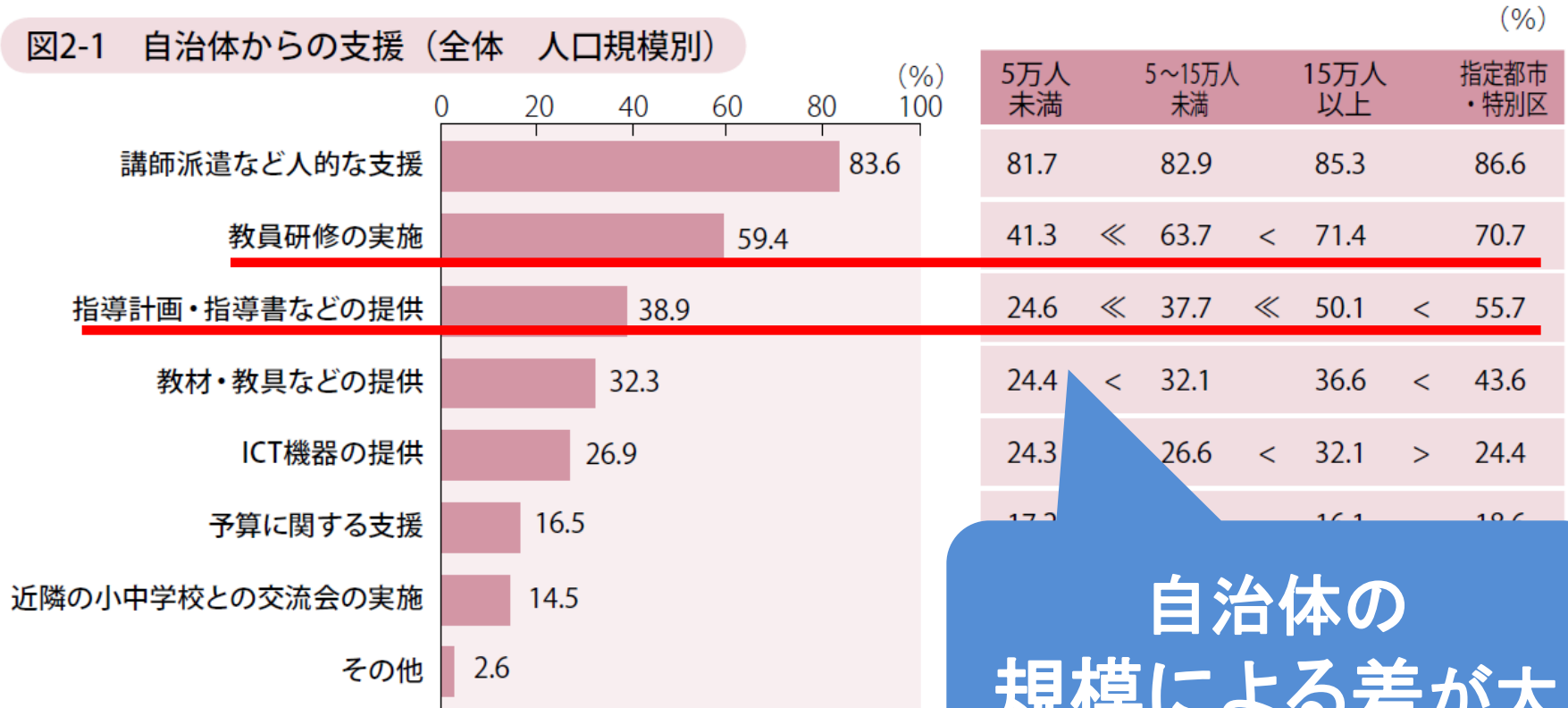
# ◆教育委員会からの支援

Q

貴校の外国語（英語）活動について、教育委員会からはどのような支援がありますか。

教務主任

図2-1 自治体からの支援（全体 人口規模別）



自治体の規模による差が大

※複数回答。

※英語活動を「行っている」学校（n=2,374）のみ対象。

※人口規模は、回答の学校所在地（都道府県・市区町村）により都市を特定し、人口データをマッチングした（総務省統計局編『統計でみる市区町村のすがた 2010』（財）日本統計協会、05年の人口データを使用）。サンプル数は「5万人未満」n=749、「5~15万人未満」n=741、「15万人以上」n=577、「指定都市・特別区」n=307。

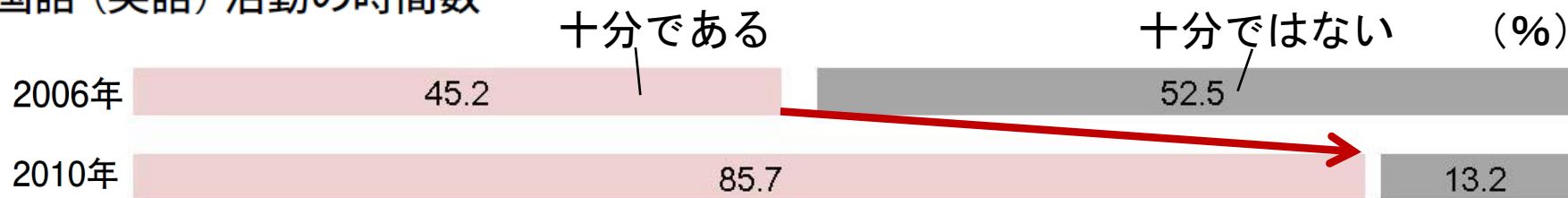
※< >は5ポイント以上、<< >>は10ポイント以上の差があったもの。

# ◆英語活動の条件整備

**Q** 外国語（英語）活動を行ううえで必要となる条件などについて、貴校の状況は十分だと思いますか。

教務主任

## 外国語（英語）活動の時間数



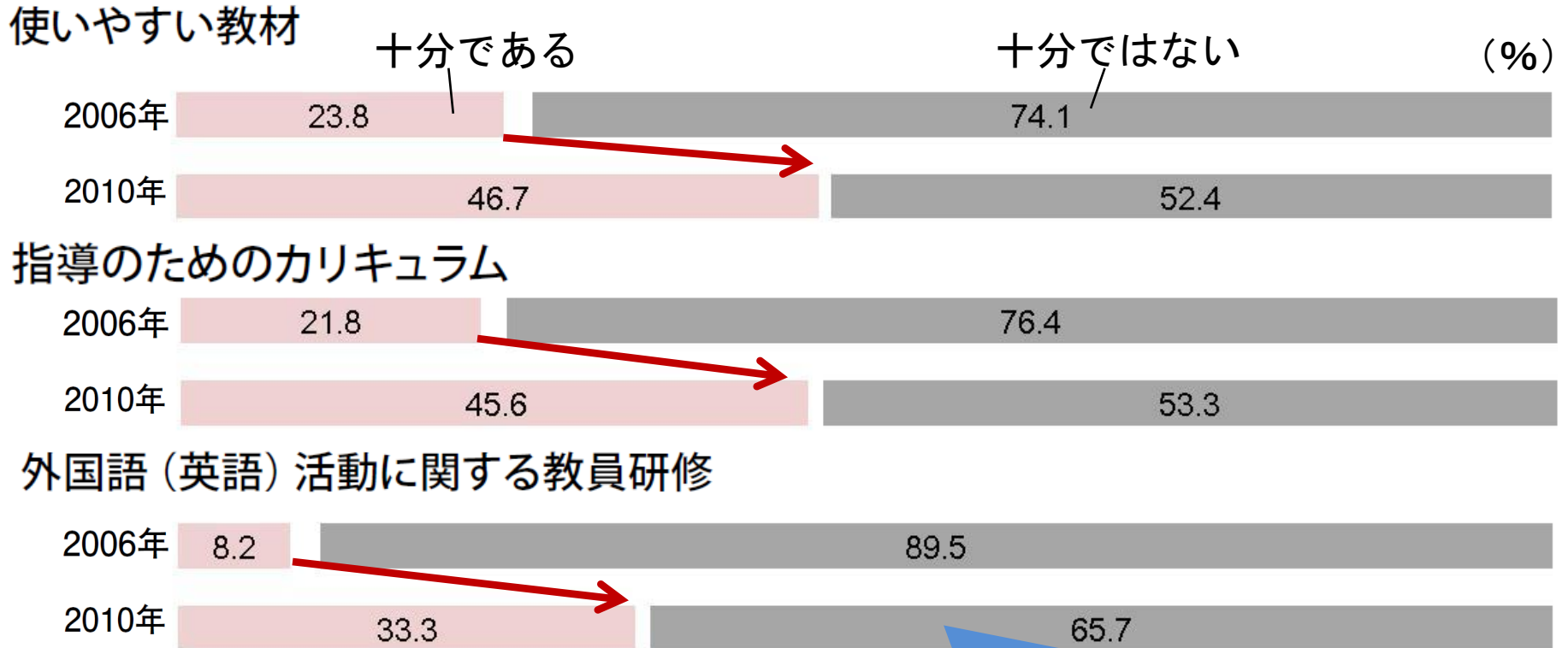
## ALTなどの外部協力者の来校頻度



※十分である(十分である+どちらかといえば十分である)、十分ではない(十分ではない+どちらかといえば十分ではない)  
※無答不明があるため、合計しても100%にはならない。

時数、ALTの来校頻度は  
充実

# ◆英語活動の条件整備



※十分である(十分である+どちらかといえば十分である)、十分では  
※無答不明があるため、合計しても100%にはならない。

教材、カリキュラム、研修は  
大幅改善したが不十分

# ◆英語活動の条件整備

## 中学校との接続・連携



## ALTなどの外部協力者との打合せの時間



## 教材の開発や準備のための時間



※十分である(十分である+どちらかといえば十分である)、十分ではない  
※無答不明があるため、合計しても100%にはならない。

中学との連携、準備や  
打合せの時間は  
圧倒的に不足

# ◆英語活動の課題

22

Q

とくに課題だと感じていることは何ですか。

教務主任

## 2006年

- 1位 教員の英語力 (40.6%)
- 2位 準備の時間 (38.2%)
- 3位 カリキュラム (32.9%)
- 4位 教員研修 (31.2%)
- 5位 打合せ時間 (24.4%)



## 2010年

- 1位 準備の時間 (57.9%)
- 2位 打合せ時間 (39.7%)
- 3位 教員の英語力 (33.6%)
- 4位 中学との接続 (23.6%)
- 5位 活動の予算 (22.7%)

※とくに課題だと思うものを3つまで選択。

※英語活動を「行っている」学校(n=2,374)のみ対象。

# ◆小中連携の状況

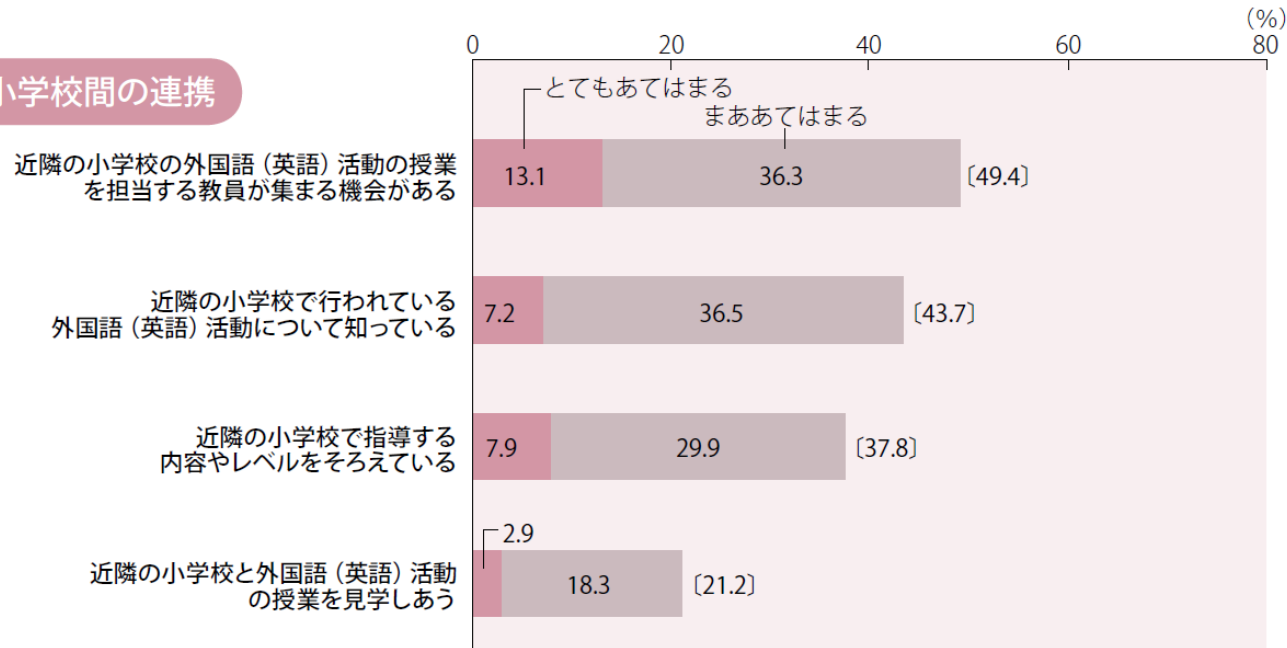
Q

貴校の外国語（英語）活動に関する近隣の小学校や中学校との「連携」の状況についてうかがいます。

教務主任

図1-14 小学校間の連携・中学校との連携

## 小学校間の連携



# ◆小中連携の状況

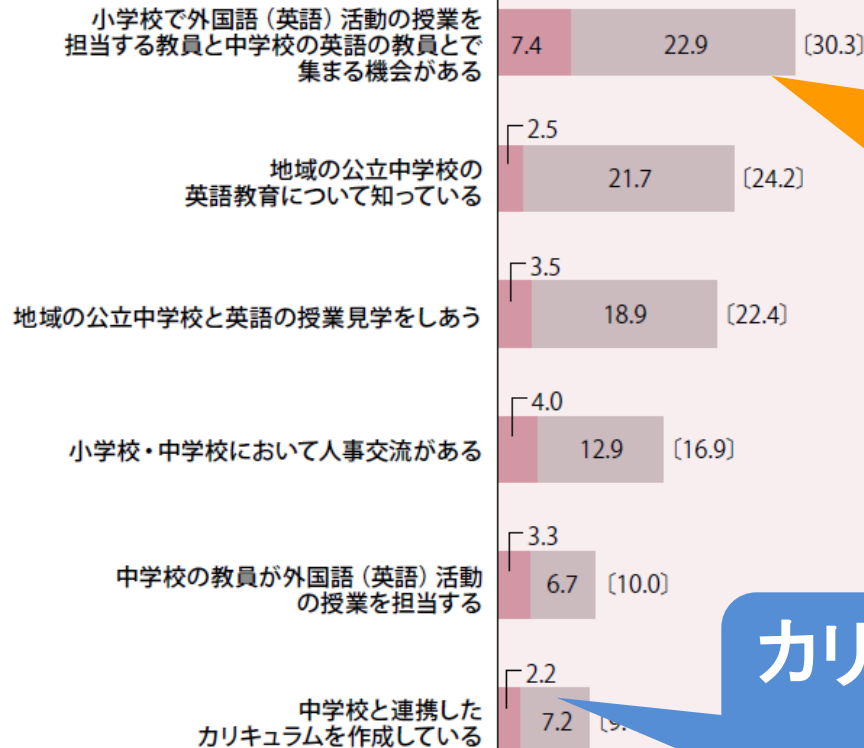
Q

貴校の外国語（英語）活動に関する近隣の小学校や中学校との「連携」の状況についてうかがいます。

教務主任

図1-14 小学校間の連携・中学校との連携

## 中学校との連携



小中教員が集まる機会でも3割

カリキュラムの連携は1割のみ

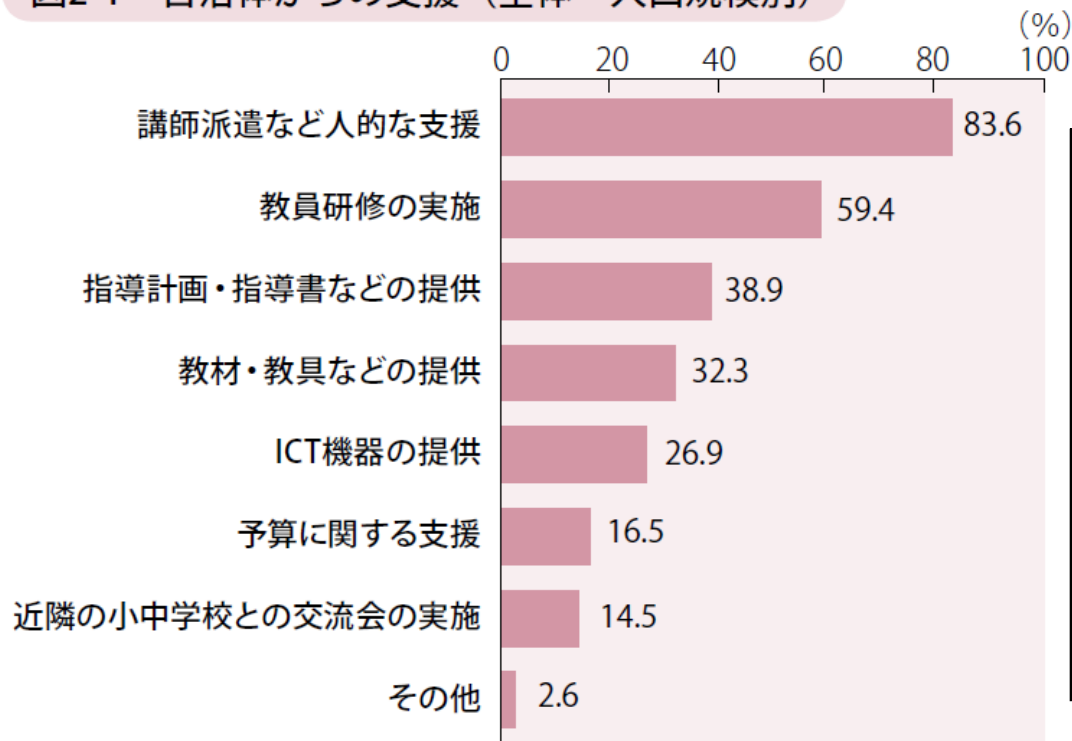
※ [ ] 内は「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

※英語活動を「行っている」学校 (n=2,374) のみ対象。



# ◆教育委員会からの支援

図2-1 自治体からの支援（全体 人口規模別）



教育委員会の支援（選択数）	度数	(%)
0	52	2.2
1	459	19.3
2	651	27.4
3	557	23.5
4	341	14.4
5	196	8.3
6	84	3.5
7	33	1.4
8	1	.0
合計	2374	100.0

教委支援選択数  
0-2

教委支援選択数  
3-6

※複数回答。

※英語活動を「行っている」学校（n=2,374）のみ対象。

# ◆教育委員会からの支援



貴校の外国語（英語）活動に関する近隣の小学校や中学校との「連携」の状況についてうかがいます。

教務主任

図1-14 小学校間の連携・中学校との連携

（教育委員会からの支援選択数別）

	教委支援選択数		
	0-2		3-5
小学校で外国語（英語）活動の授業を担当する教員と中学校の英語の教員とで集まる機会がある	26.1	<	33.5 ***
地域の公立中学校の英語教育について知っている	19.7	<	27.4 ***
地域の公立中学校と英語の授業見学をしあう	19.2	<	24.5 ***
小学校・中学校において人事交流がある	13.4	<	20.2 ***
中学校と連携したカリキュラムを作成している	6.3	<	12.0 ***
中学校の教員が外国語（英語）活動の授業を担当する	9.6		10.4 *

※ns p>0.05, \* p<0.05, \*\* p<0.01, \*\*\* p<0.001

※外国語活動について教育委員会から受けている支援を尋ねた複数回答（8つの選択肢）の設問に対する選択回答数により「教委支援選択数0-2」（1,162名）「教委支援選択数3-6」（1,178名）と分類した。7以上はサンプル数が34名と少ないため省略。

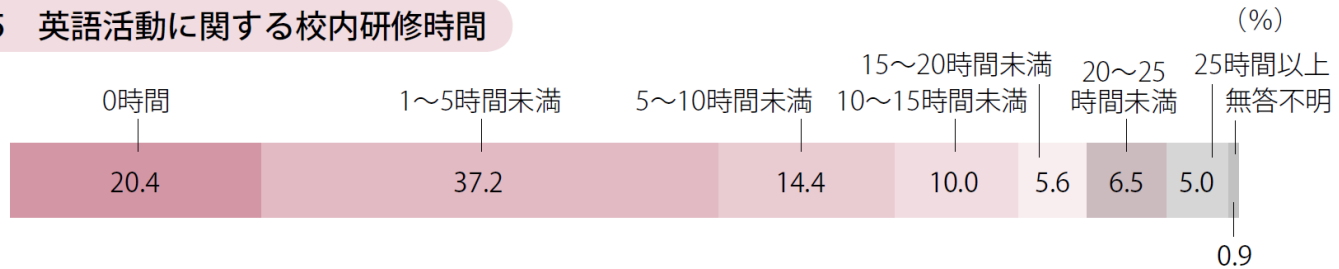
# ◆ 研修時間と指導への負担感

Q

昨年度から今年度の夏休みにかけて、あなたは何時間くらい外国語（英語）活動に関する校内研修を受けましたか。

学級担任

図1-15 英語活動に関する校内研修時間



※英語活動を「行っている」学級 (n=2,315) のみ対象。

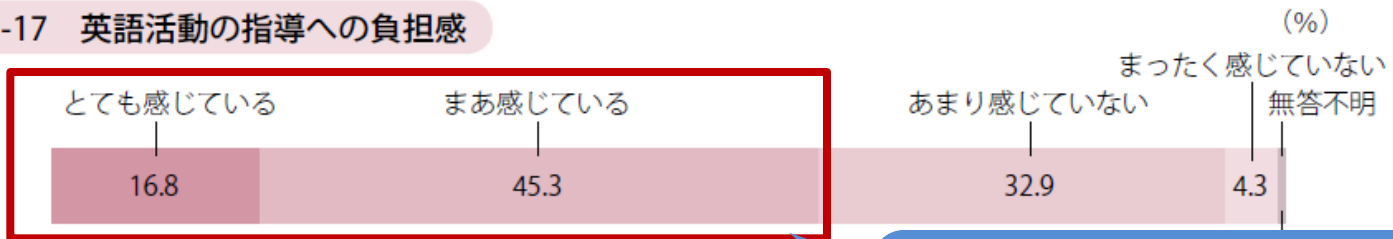
平均6.8時間

Q

あなたは、外国語（英語）活動に負担を感じていますか。

学級担任

図1-17 英語活動の指導への負担感



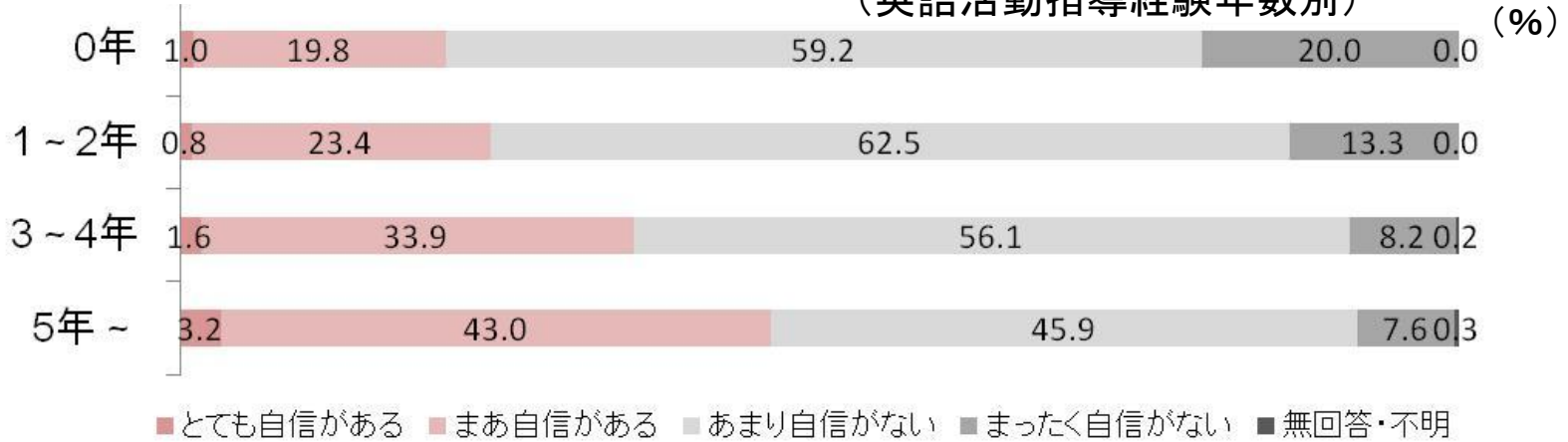
※英語活動を「行っている」学級 (n=2,315) のみ対象。

6割の教員が  
指導に負担感

# ◆指導経験年数別の不安感や負担感

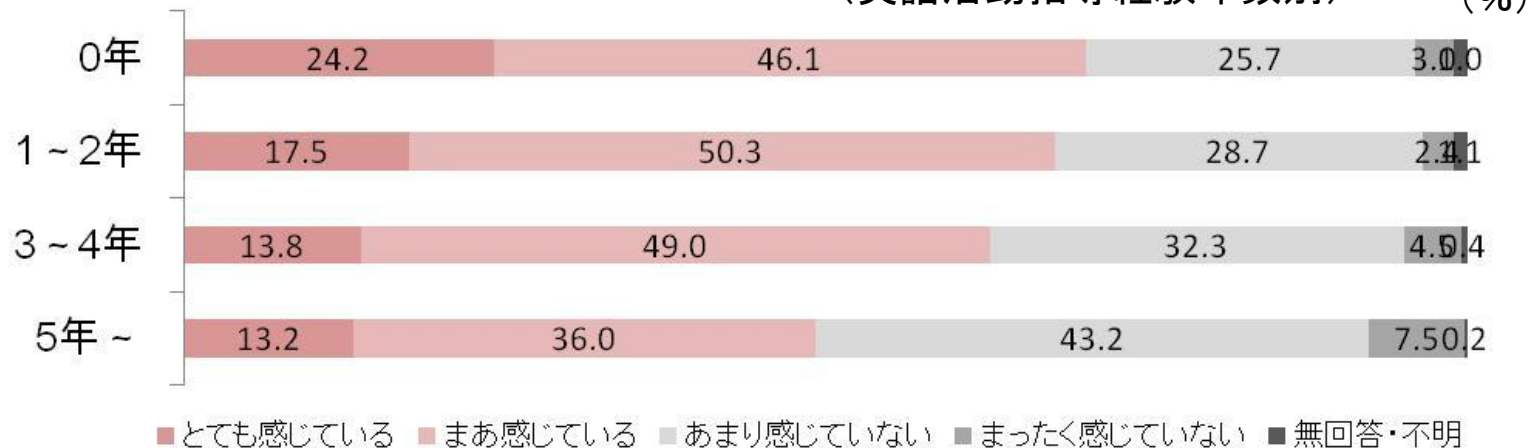
**Q** あなたは、外国語（英語）活動を指導することに自信がありますか。 学級担任

（英語活動指導経験年数別）



**Q** あなたは、外国語（英語）活動に負担を感じていますか。 学級担任

（英語活動指導経験年数別）



## ◆まとめ（ポイント）

### 1. 小学校の英語活動は5年前に比べ、大きく前進

- 約8割の小学校が、高学年ですでに年間35時間の活動
- 指導の中心は「外国語指導助手(ALT)」から「学級担任」へ
- もっとも使用される教材は「英語ノート」(9割)
- 「外国語に慣れ親しむ」など子どもによい変化も
- 指導経験年数が長いほど、不安感や負担感が少ない

### 2. 解消されていない課題も残る

- 指導の中心である「英語ノート」の改善
- カリキュラムの連携は1割など、中学との連携不足
- 教委の積極性による小中連携への取り組みの差
- 地域差、学校差の問題

## ◆まとめ（ポイント）

30

### 3. エビデンスに基づく議論の重要性

- 小学校の外国語活動の全体像をつかむ調査がない
- 行われた施策について、導入の目的と照らし合わせた効果検証が行われているか

### 4. 小学校教員をとりまく構造的な問題への視点

- 新学習指導要領の全面実施もあり、多忙化がすすむ
- 準備、打合せの「時間」に課題意識が集中

ベネッセ教育研究開発センターHP

「第2回小学校英語に関する基本調査」

[http://benesse.jp/berd/center/open/report/syo\\_eigo/2010\\_dai/index.html](http://benesse.jp/berd/center/open/report/syo_eigo/2010_dai/index.html)

[http://benesse.jp/berd/center/open/report/syo\\_eigo/2010/index.html](http://benesse.jp/berd/center/open/report/syo_eigo/2010/index.html)